第 351 回

広島県内水面漁場管理委員会議事録

(委員会開催日 令和5年7月13日)

第351回広島県内水面漁場管理委員会議事録

1 開催日時及び場所

日 時 令和5年7月13日(木) 午後2時06分～午後4時30分

場 所 広島県内水面漁場管理委員会委員室
(広島市中区基町10-52)

2 開催告示月日及び招集者

告示月日 令和5年6月28日(水)

招 集 者 広島県内水面漁場管理委員会 会長 辻 駒 健 二

3 出席者

委員(9人) 辻駒健二、飯尾協、八谷輝行、山崎英治、山下頼信、小池勝、
河合幸一郎、中尾文治、宮林豊

県(5人)	農 林 水 産 局 水 産 課	課 長	木村 淳
	〃	主 査	木村 剛司
	西 部 農 林 水 産 事 務 所 水 産 課	課 長	山根 康幸
	西 部 農 林 水 産 事 務 所 水 産 第 二 課	主 査	三浦 健太郎
	東 部 農 林 水 産 事 務 所 水 産 課	課 長	横山 憲之

事務局(3人) 福地次長、中林主査、青山技師

4 傍聴人(利害関係者等)

なし

5 議題及び報告結果

(1) 付議事項

第18号議案 内水面漁場計画案について

(結 果) 原案のとおり承認された。

(2) 協議事項

第19号議案 第5種共同漁業権に係る増殖指針について

(3) 報告事項

- ・全国内水面漁場管理委員会連合会内水面漁場管理委員の表彰について
- ・漁業法第90条に基づく資源管理の状況等に関する報告について（令和3年度分）

(4) その他

内水面共同漁業権の漁業の免許申請等の事務手続き要領について

6 議事の経過

午後2時06分、事務局の福地次長が第351回広島県内水面漁場管理委員会の開会を宣言し、委員総数10名に対し出席委員は9名で、本委員会が成立していることを報告した。

続いて、議事録署名者に飯尾委員と山崎委員を指名し議事に入った。

【第18号議案 内水面漁場計画案について】

議 長 それでは議事に入ります。

はじめに、付議事項の第18号議案「内水面漁場計画案について」を上程します。
提案理由を事務局から説明してください。

福地次長 （提案の理由及び根拠規定を説明した。）

青山技師 （資料1-1により内水面漁場計画案の概要について説明した。）

議 長 ただいま県から説明がありました。皆様方のご意見、ご質問をお願いします。

飯尾委員 基本的に大きな変更は木野川と芸防で、その他は小さな変更があるということですね。木野川の漁場が整理されたことに加え、ますの漁業権が2件追加され、細かい変更が5件となっている。漁協から漁場計画要望をとって、調査をしながら調整をされていると思うが、要望と計画の間では、調整が付き課題がないと理解してよろしいですか。

青山技師 はい。

議 長 大きな変更は木野川の解散による整理があったということですね。漁業権魚種については、資料1-2の「漁業の種類及び名称」に記載しているとおりで、ますが何件か追加されたということですね。

八谷委員 漁協と協議された要望が計画に載っていれば、問題はないと思います。

議 長 それでよろしいですか。

全 委 員 はい。

議 長 他に意見がないようなので、原案どおり承認します。

全委員 はい。

【協議事項 第5種共同漁業権に係る増殖指針について】

議長 では、協議事項に移ります。第19号議案「第5種共同漁業権に係る増殖指針について」を上程します。まず、事務局から提案理由を説明してください。

福地次長 (提案の理由を説明した。)

福地参事 (資料2-1から2-4により増殖指針について説明した。)

議長 ただいま県から、議案について説明がありました。協議事項ですので、委員の皆さま、どうぞ忌憚のないご意見・ご質問をお願いします。

河合委員 資料2-2の4ページから5ページのゴギに関する規定について、「遺伝的系統が異なる種苗の導入により遺伝的多様性が損なわれることがないよう」という表現はおかしい。むしろ異なる河川のゴギを入れた方が遺伝的多様性は高くなる。この規定の目的からすると、遺伝的多様性ではなく、遺伝的固有性又は遺伝的独自性という表現が適切だと思われます。また、「増殖を行う場合は天然の再生産環境を保全する措置を検討すること」とあるが、漁協として何かできることはあるのでしょうか。

福地参事 例えば禁漁区を作るなど、あまり人が立ち入らないという措置が挙げられます。

河合委員 禁漁区を作るというのはほとんど効果がなく、禁漁区を作って2～3年ぐらい完全に保護水面にするよりも、木を植えたり深い淵を作るといった魚の住処を作ってあげの方が効果的だと思います。ただ、漁業権を管理している漁協では対応が難しいと思われるので、この規定は言葉だけであってあまり効力がない気がします。

福地参事 確かにご指摘のとおりだと思いますので、この場で書き換えを考えてみました。「ほぼ天然の再生産のみで個体群が保たれているため、遺伝的系統の異なる種苗の導入により遺伝的独自性又は固有性が損なわれることがないよう、安易な放流を行わないこと」といった表現でよろしいでしょうか。

河合委員 最後の再生産環境を保全する措置を検討することと言われても、漁協では何にもできない。河川管理者等に言うべきことだと思います。

議長 ゴギの漁業権をもっているところがあるのでしょうか。

福地参事 ますの中に入っています。

議長 他にご質問はありますか。

飯尾委員 あゆの増殖方法に汲み上げ放流が追加されたわけですが、具体的にどこを対象に追加したのでしょうか。次にうなぎについて「今後、広域的なウナギの資源管理に取り組むこととなった場合等は、増殖方法及び規模等を見直すことも検討する。」とありますが、全国的な取り組みとして何かしらの指示があれば、それに沿った増殖指針の見

直しがあるという意味でしょうか。続いて、今回こいの増殖方法に産卵床造成を追加したわけですが、種苗放流を自粛している漁協で産卵床造成を行わないとなると増殖義務を果たしていないという話になるのでしょうか。最後に、もくずがにについてもあゆと同様に汲み上げ放流という手法が追加されています。あゆについては、漁業権区域を目指して遡上するもののみを対象にするが、もくずがにについてはそのような制約がない。あゆについて別の漁業権に遡上するものは対象外にするというのは、その他の河川の資源状態を悪化させないためのもので、もくずがにについてはそのような心配がないため制約をかけていないという理解でよろしいですか。

福地参事　　まずあゆの汲み上げ放流の対象となる具体的な場所ですが、木野川漁協の渡ノ瀬ダムが対象となると聞いています。そちらの方で一度汲み上げができないかというお話がありましたが、当時はまだ汲み上げが増殖指針に位置付けられていなかったため、できるが義務放流量にはカウントできない状況でした。そこで、今回増殖指針に入れることとしました。

山崎委員　　渡ノ瀬ではなく、小瀬川ではないですか。壊れた頭首工があり、そこを利用して1、2回やられたと聞いています。

議　　長　　現在もやられているのですか。

山崎委員　　やられてないと思います。1、2回やって思うように獲れなかったので、やめたと聞いています。

議　　長　　現在も継続されているのであれば、増殖指針に入れるべきだが、継続されていないものを入れるのはどうなのでしょう。

山下委員　　増殖指針に入れておくことには支障はないと思います。

飯尾委員　　できる場所はあるのではないのでしょうか。増殖手法が増えることはいいことだと思います。

山崎委員　　吉和川漁協が引き継いだ後で思いはあります。

議　　長　　やまめもあゆも放流義務量の算定の際、計算上1尾当たりの重量を5グラムとしているわけですが、実際5グラムの種苗を放流している漁協はないでしょう。

福地参事　　もう少し大きい種苗を放流していると思います。

議　　長　　そうですね。8グラム以上の種苗を放流していると思います。やまめにしても、今は解禁前の2週間前に放流しています。なので、実際の種苗の大きさと算定式の種苗の大きさは合っていないと思います。現状をしっかりと見てから増殖指針を立てないといけません。あゆでも二次放流するところは100グラムで放流しています。

福地参事　　計算上の話ではありますが、放流量を出すときの考え方の問題として、河川の面積

の中に何尾生息できるかという考え方で、尾数だけで計算をしています。その尾数を重量に直すときに5グラムを使っています。それを8グラムや10グラムにすると今の倍の放流量になってしまいかねないことになります。

河合委員 尾数というのは、成魚での生息できる尾数ということですよ。その時の尾数の根拠と実際に放流するとなった時の尾数がかみ合っていないですよ。

福地参事 最終的に大人になったのが生息できるスペースで考えています。

河合委員 うまくかみ合っていないと思います。

福地参事 そこはあると思います。今はキログラムでという指示になっていますので。

八谷委員 川の環境が変わっている状況で、瀬もなく、砂地になっています。今の指示量はどこの漁協もそれを上回っていますので、現在の指示量を変えようがないと思います。実際には私も考えていますが、放流量についてはもう少し検討しようと思います。川によって状況が異なりますので。

飯尾委員 実際には釣られていくため、この計算式で算出された数量が最適かどうかは分からないですね。

八谷委員 実際のあゆの放流量はどこの漁協も指示量を上回っていると思います。上回っていても放流以降にどのくらい大きくなるかは年によって大きく変わります。放流方法・時期を考えないとどうにもならない状況です。自分自身はこの数量はあまり変えようがなく、このままでいかざる負えないと思います。

議長 漁業権免許を来年出すわけですから10年先を見通して書いてあげないといけないと思います。

福地参事 最初の飯尾委員のご質問のうなぎの所からよろしいでしょうか。増殖方法と規模を見直すというのを文言に入れたところですが、今後、国の方で広域での管理のやり方が出てきたら、それに合わせた形で増殖指針を見直すのかというお話であったと思います。それはおっしゃるとおりです。ただ増殖指針というのは、免許時に示すものでして、免許の存続期間中に改正をしていくことはなく、ここから後の増殖に関する指示ややり方は委員会指示に譲る部分も出てくるため、その中でも同じようにやり方を考えていくことになると思います。

議長 池を持っている漁協に聞けば、飼料がかなり高騰しており、あゆややまめを放流するのに今よりお金がかかると思います。

福地参事 うなぎに関しては、種苗の価格が非常に高騰し、入手ができないということで、未達になるところが出てきた折にも即座に指示違反や増殖義務違反とみなしてはいけませんので、そのあたりは柔軟に対処していきたいと思っています。次に、こいの産卵

床造成を入れたことで、造成をやらなかった場合、指示違反や増殖義務違反となるのかという趣旨だったかと思うのですが、まずは入れてみてやってみたいとおもうところからやるという趣旨での記載で、いきなりこれを義務にするつもりはありません。できそうなところからやってみていただいて、こちらもそのデータをもらいながら今の定め方でいいのかどうかというところも検証しつつ、できそうだとすることであれば、県の普及とも相談をして取り組みを始められていないところにも紹介してもらいたいと思います。実際にこれで増殖の規模を示していくのかということは今後の課題だと思っています。少なくとも今回免許をする漁業権がある間に義務化というのは考えおりません。その間にやってみて、やらないといけないのならこいの漁業権はいらぬという漁協もいるかと思っています。その辺りは現場と意見交換をしながら対応していきたいと思います。最後に汲み上げ放流について、もくずがにについては移植放流を含んでいるが、あゆは移植放流は含んでいないということだったと思います。あゆについては移植放流は現在行われておりますので、移植放流とは別に汲み上げ放流を位置付けということになります。それとは別にもくずがには移植を含んでいるという趣旨ですが、あゆと異なりもくずがには種苗の入手が非常に困難になっているという事情があり、漁業権外の河川を遡上するものを漁業権の対象になるところに囲い込むのかという批判もあるとは思いますが、もくずがにの免許を持っている漁協も少なく、1キログラムの汲み上げ移植当たり1キログラムの放流とみなしていますので、大量移植ということにもならないであろうということもあり、近隣の河川から少し持ってくることも良いのではないかとということで書き分けています。

議長　　今は放流量の2～3割しか獲れません。昔は産卵時期にはウグイが河川で産卵していたが、今はウグイの姿もないです。コイでも産卵によって増えていましたが、今はカワウの影響かコイもない状況です。

議長　　皆様、他に意見はありませんか。

全委員　　はい。

議長　　第19号議案につきましては、本日の委員の意見を踏まえて調整のうえ、手続きを進めてください。

【報告事項 全国内水面漁場管理委員会連合会内水面漁場管理委員の表彰について】

議長　　では、報告事項に移ります。全国内水面漁場管理委員会連合会の表彰について、事務局から表彰される方を紹介してください。

福地次長　　（表彰制度の紹介、表彰状の授与案内をした。会長から委員3名へ表彰状の授与をした。）

議 長 河合委員、山崎委員、そして山下委員、長きにわたる御尽力に感謝いたします、おめでとうございます。

【報告事項 漁業法第 90 条に基づく資源管理の状況等に関する報告について（令和 3 年度分）について】

議 長 続いて、漁業法第90条に基づく資源管理の状況等の報告（令和 3 年分）について、県から説明してください。

青山技師 （資料 3 - 1 から 3 - 3 により資源管理の状況について報告した。）

議 長 これは水産庁がしているのですか。

福地参事 漁業法の中で委員会に対し、漁場の利用状況等を調査したうえで報告をするようになっていきます。

議 長 これは委員への報告だけで、漁協への報告はしないのでしょうか。

福地参事 各組合に対しては、報告していただいたものを取りまとめたものなのでフィードバックする制度ではありません。

議 長 他の漁協がどのようにしているのかという情報提供は必要だと思います。

福地参事 例えば、資源管理に資する取り組みの状況等に関しては共有しても差しさわりのないと思いますので、問題のない部分についてはそういったことも検討していきたいと思います。

議 長 他の漁協も漁業権は持っているのだから、参考になるようなことをしてあげべきだと思います。

河合委員 私自身も遊漁者ということで遊漁券の収入状況は気になるところですけど、これは漁協によって大きく違いますよね。漁業権収入状況を決める要因、例えば管理する水面、漁業権の種類の数、漁場へのアクセスの良さといったことを解析すると参考になる気がします。

八谷委員 魚が獲れるか獲れないかが収入状況に影響すると思います。それ以外の要因はあまり感じないです。遊漁者は魚が獲れば来ます。今は携帯電話で情報がたくさん出回っていますので。帝釈峡漁協は去年わかさぎが一番良く、1日に 40 人ぐらい来ていました。ただわかさぎは日券が 500 円なので、あまり大きな収入増にはなりません。

河合委員 割高な遊漁券設定でも釣れれば遊漁者は来ると思います。

山崎委員 令和 3 年はたまたま周辺の河川状況が芳しくなかったため、吉和川に人が集まったと思います。

議 長 今は SNS の影響で、良い漁場に人が集まります。ある漁協では釣りやすいところや人が入りやすいところに局所的に放流しています。

八谷委員 実際には今、あゆにしてもあまごにしても放流効果を考えて放流しないといけません。大きくならないところに放流しても意味がありません。漁業権設定をしていても少なく放流するところと、多く放流するところをつくる必要があると感じます。

山崎委員 アユというのは往々にして放流したところにはいないと感じます。

八谷委員 それが最近放流したところにいます。

山崎委員 吉和川はそのようなことはないですね。釣りたいところに入れてもいなくなってしまう。

八谷委員 川によって状況は異なりますので、放流方法と放流量を考えなければ、今後はよいことにならないと思います。

飯尾委員 江の川もよく釣れるということですが、その時の水温が低いと下るらしく、その年の水温から予測して釣ってもらっていると聞いています。

小池委員 八幡川漁協でカワウの駆除とありますが、これは表現が違うと思います。駆除はできないと思いますが。吉和川漁協も全て追い払いとなっています。

山崎委員 うちも駆除を 82 回実施しており、銃器での駆除を行っています。

小池委員 鳥獣保護法の関係は問題ないのでしょうか。

山崎委員 二種におちたので問題ありません。

八谷委員 基本的には住居から 200 メートル離れていれば、銃器での駆除は問題ありません。

飯尾委員 八幡川漁協は駆除を行っていませんでしたが、最近はダム湖にコロニーができてしまって、町やハンターと協力してやっています。

福地参事 報告しました漁業法第 90 条に基づく資源管理の状況等の報告というのは、資料 3-2 に根拠がありますが、漁協が免許を受けて行っている資源管理の状況と漁業権漁場の有効活用の状況の報告を毎年いただき、適正に活用されているか、適正に管理されているかといったところを確認するということが主な目的です。その状況を取りまとめて年 1 回以上、漁場管理委員会にも報告するということとなりますので、今後、令和 4 年度分、5 年度分と毎年やっていく形になります。ただ、こうした情報はずっとたまっていきますので、その有効活用についてもこれから検討していきたいと思えます。

議長 川に入るのに有害鳥獣の柵を越えるのが大変です。川へ入られないではないかという声を聞きます。

八谷委員 メッシュの柵があり、川へ降りる所がありません。

議長 これは大きな課題だと思います。

八谷委員 電牧の柵ですとあまり高くないですが、メッシュの柵ですと 1 メートル以上ありま

す。

山崎委員 猪の場合ですと横に柵を立てていきますが、鹿の場合は縦に高い柵を立てています。
議 長 それは登るところがありませんね。

議 長 どうしても敷地を通して川に入らないといけない状況です。そのところが大きな課題です。ですから、地権者と協力して扉を付けて川へ降りる所も作っていかねばなりません。新規でやまめの漁業権を受ける漁協は、地域の方と協力して川の整備から始まります。このような情報があるわけですから、組合に向けて情報提供してもよいのではないのでしょうか。

八谷委員 実際にはこういった報告は理事会等を出していけばいいと思います。

飯尾委員 元データを持っているところが出してくれれば、良いと思います。

議 長 他に意見はありませんか。

山下委員 漁獲量の数字について質問してよろしいでしょうか。

八谷委員 はっきり言って難しいです。

山下委員 太田川の場合は、組合員はある程度把握できると思いますが、遊漁者は分からないでしょう。

山崎委員 遊漁者は分からないです。遊漁者の漁獲量にはあまり意味はないと思います。

八谷委員 漁獲量については難しいです。

山崎委員 河川巡視員が釣り人の人数を確認するので、そこから概数で算出するしかありません。

八谷委員 漁場にいる人数、平均の1人当たりの漁獲量、釣りをする日数で計算上概数をだしているだけです。

議 長 遊漁券が売れているということは、遊漁者もある程度釣れているということですよ
ね。

八谷委員 そうだと思います。

議 長 それでは、その他にまいります。

【その他 内水面共同漁業権の漁業の免許申請等の事務手続き要領について】

議 長 内水面共同漁業権の漁業の免許申請等の事務手続き要領について、事務局から趣旨を説明してください。

福地次長 (事務要領であり、委員会への意見聴取を求める規定はないが、遊漁料の設定等に関する事項もあるため、県から意見を伺いたい旨の申し出があった。)

木村主査 (資料4により漁業権行使料及び遊漁料の算定根拠について説明した。)

議 長 ただいま県から、説明がありました。あえて議案とせず、率直に意見をとのことで

すので、委員の皆さま、どうぞ忌憚のないご意見・ご質問をお願いします。

議長 10年前の話になりますが、シラスウナギが獲れないようになったため、理事会でうなぎ籠の遊漁料の増額について議論がありました。しかし、行使料も同時に上げるということでないと難しいと言われました。

八谷委員 河川工事協力金やダム補償そして入漁料でぎりぎりの状況です。ただ、行使料、遊漁料ともに上げるわけにはいかないですし、遊漁料については行使料より高いのはならんです。現状でいかざるをえないと思います。近年は災害の関係で、工事協力金が多いですが、来年ぐらいからきつい状況になるため、放流にも影響がでる可能性があります。少なくとも遊漁料は上げるつもりはありません。

飯尾委員 50パーセント上限というのはおそらく、組合員が遊漁者より多くいた時に、遊漁者から多く料金を徴収してはいけないという趣旨での制限だったと思われませんが、今は状況が変化しており、利用状況に応じた負担とするため、50パーセント上限を撤廃するのは妥当だと思います。ただ、計算式から算出された額を増額するかどうかは委員会での意見を反映させて妥当な金額にしていくべきだと思います。

八谷委員 行使規則の中に行使料を入れるようになっているのですが、規則例を示していただけますか。

福地参事 はい、事務手続き要領の中で示します。

八谷委員 はい、わかりました。

飯尾委員 毎年行使料を見直している組合があれば、使い勝手が悪いですね。

河合委員 資料1をみると、遊漁料と行使料の金額よりも補償金・助成金が多くなっており、健全な状態ではないと感じます。補助金や助成金になるべく頼らず、かつ遊漁料の単価を上げないようにしようとするのであれば、遊漁者を集めるしかありません。そのために魚がたくさんいる河川にしていく必要があります。

八谷委員 補助金の中にダム補償がありますが、ダム補償がないところは運営が厳しいです。工事協力金等の雑収入は年度によって異なりますので、協力金がなしで運営できる状況にしなければなりません。それと、最近は合併の問題も考えていかなければ運営できないと感じています。

山崎委員 吉和川漁協の遊漁料の売上が令和3年は400万円ありましたが、令和4年は江の川と高津川の状況が良かったため、売上が70万円下がりました。遊漁者の全体数は決まっていますので、その人たちがどこにいくかだけのことです。私たちが今取り組んでいるのは、若い人に新規で釣りを始めさせようすることです。新規の組合員又は遊漁者を作るということをしなければ根本的な解決にはなりません。

河合委員 遊漁者の取り合いではなく、遊漁者を増やす取り組みをしなければならないですね。

山崎委員 そうですね。

八谷委員 高齢化で理事をする人もなかなかいないです。根本的な問題が出ている年だと思います。基本的には河川で魚が釣れば問題ないのですが、カワウやサンショウウオ等の影響もあって十分に釣れない。一番お金になるのはアユですが、最近は厳しい状況です。

議 長 遊漁証について共通券の発行を提案したことがありますが、理事が了承してくれませんでした。他の組合にも聞いてみましたが、前向きではありませんでした。昔は4つぐらいの遊漁券を買っていましたが、今はいないと思います。

八谷委員 合併をすると、他の河川で漁業をしていた人が来るようになり獲れる量も減ってしまいます。なので合併というのは誰も望んでいませんが、行使料を上げると言っても快く了承してくれる人もいません。どちらがよいのかと思い悩んでいます。

議 長 資料4の4ページの下に経費の内訳がありますが、その協力金というのは工事等の協力金のことでしょうか。

木村主査 基本的には放流に対する協力金です。様々な協力金をいただきたいと思います。放流又は漁場管理に使う分の割合を記載していただければと考えています。

議 長 中電からの補償金というのも協力金に含まれるということでしょうか。

木村主査 そうですね。その中で放流等に使う分を記載していただければと思います。

議 長 それでは他にないようですので、すべて終了したということですが、委員の方々、県または事務局から何かありませんか。

福地次長 (県庁駐車場の利用方法の変更について案内した)

議 長 これをもちまして、第351回広島県内水面漁場管理委員会を終了します。長時間にわたるご審議、ありがとうございました。

(午後4時30分 閉会)